

大巡思想の循環的経済観

学術発表

- 貨幣の二重性：自由の宝庫でありまた軛(くびき) 循環の必要性と大巡思想のアプローチ
-
- 著者：[発表者の氏名と所属]と循環経済学の代案 所属：[所属機関]
- 甌(シル)経済学：韓国的経済学の可能性
日付：[発表日]

目次

1

貨幣

2

現代経済学の限界と循環経済学の代案

3

大巡思想の循環的経済観の核心概念

4

儒仏道と西教の経済思想の比較

5

現代の経済問題の解決策

6

韓国経済の特殊性と循環論的
背景

甌(シル)経済学と人尊思想

結論および今後の課題

1 貨幣の二重性と循環の必要性

⚖ 貨幣の二重性

「貨幣は人間の自由の宝庫であり、また自由の軛(くびき)であって、循環以外には解けない難解な存在である。」

⚠ 循環中断の危機

循環が中断されると、経済動機の失踪、経済倫理の崩壊、環境危機などが招来される

🔄 大巡思想の循環観

大巡思想では、儒仏道を循環させて今日の経済問題を解決しようとする。経済と倫理の統合、人間存在の意味の回復へとつながる



2 現代経済学の限界と循環経済学の代案

新古典派経済学の限界

「現代は資本主義時代で、財物を最も尊重する時代というが、相対的に経済学は隠蔽させる時代である。」

需要と供給の曲線のみでは、貨幣循環の秘密と儒仏道との関連が隠蔽される

循環的経済学の代案

自由と共同体の間の循環を通じて、社会契約に基づく健全な自由を追求。経済と倫理の統合を通じて人間の経済動機を回復

現代の経済危機の解決

循環的観点から、環境危機、経済動機の失踪、倫理の崩壊、理念の混乱などを同時に解決

新古典派経済学

個人の自由の極大化

経済と倫理の分離

環境問題の外部化

理念的分裂の固着化



循環的経済学

自由と共同体の均衡

経済と倫理の統合

環境と経済の循環

儒仏道と西教の統合

大巡思想の循環的経済観の核心概念



経済動機：自由の追求

「人間の究極的な経済動機は自由にある。しかし自由は循環が前提されて初めて可能である。」

共同体を形成した後、再び自由への道を歩むという循環論的アプローチ



共同体の公利と社会契約

「自由は健全な社会契約に基づき、社会契約は共同体の公利に、共同体の公利は共同体の存在自体に基づく。」



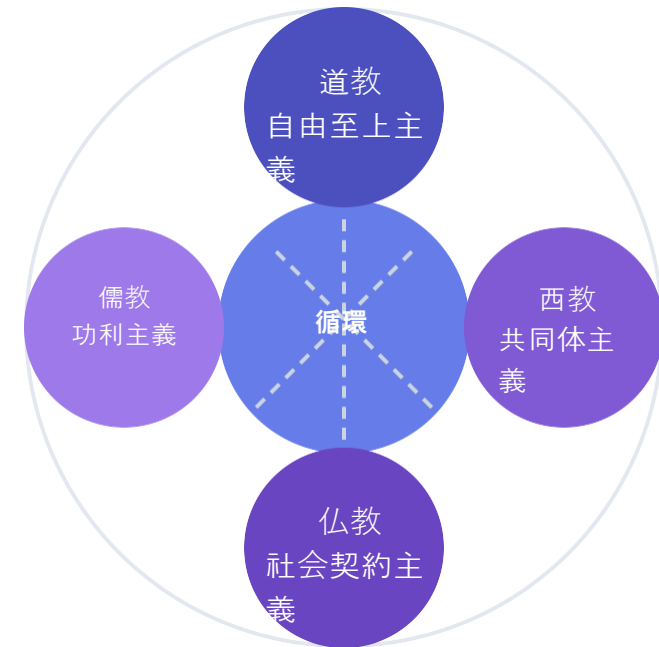
経済と倫理の統合

「聖雄を兼ね、君師位が一つの筋となるべきである」
礼義(禮義)と禄(祿)をともに重視し、経済と倫理の総合を追求



4 儒仏道と西教の経済思想の比較

思想	経済理念	核心的価値
道教(道教) 自由至上主義	無為自然 市場の自然な流れの尊重	自由と個人 陰陽合徳を通じた循環的自由の追求
仏教(佛教) 社会契約主義	縁起(縁起) 相互依存的な経済関係	分配と正義 神人調化に基づく回帰的分配
儒教(儒教) 功利主義	經世済民 社会全体の利益の重視	公益と秩序 解冤相生に基づく中和的功利
西教(西教) 共同体主義	共同善 共同体中心の経済活動	環境と持続性 流行的共同体主義の財貨観



5 現代の経済問題の解決策

! 現代経済の危機

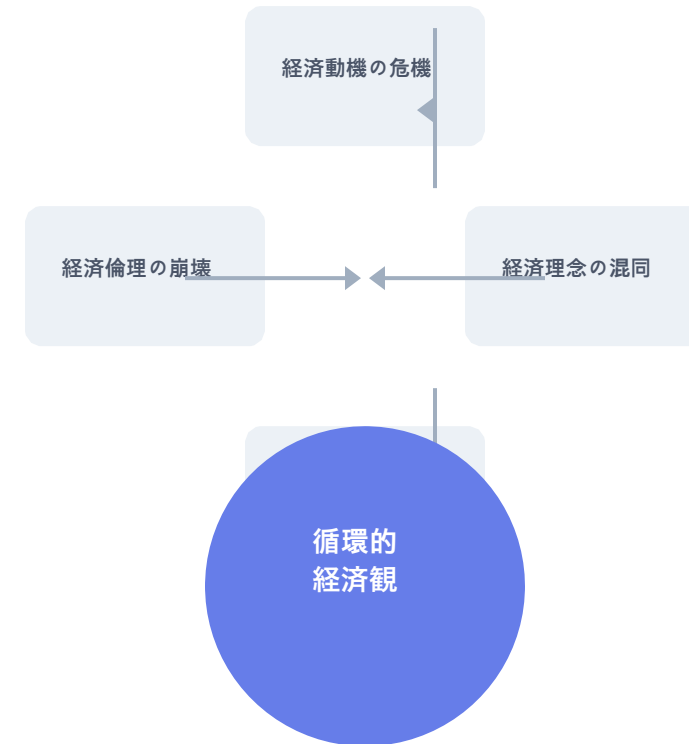
経済動機の失踪、経済倫理の崩壊、経済理念の混同、環境危機など複合的な問題が発生

🔄 循環的経済観による解法

大巡思想は、陰陽合徳、神人調化、解冤相生、流行的共同体主義を通じた解決策を提示

🔗 統合的アプローチ

経済動機：待対的自由至上主義の財富観 経済倫理：回帰的
社会契約主義の分配観 経済理念：中和的功利主義の労働観
環境問題：流行的共同体主義の財貨観



6 韓国経済の特殊性と循環論的背景



韓国経済の特異性

世界的な経済危機の中でも日本経済を追い越した韓国経済。18世紀まで世界2位圏の経済力を維持していた歴史的背景



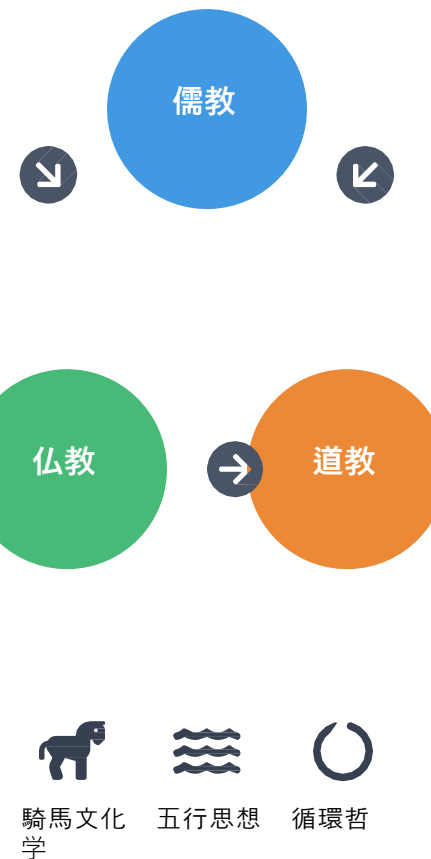
循環論的思想の基盤

儒仏道の三合の循環論を最大の特徴とする韓国思想。固有の騎馬文化と五行の国としての循環科学の伝統



家族中心の共同体循環

世界唯一の儒教文化圏として家族を経済の基本とする。人尊思想に従った家族と先霊神の重視、共同体循環の基礎



7 甗(シル)経済学と人尊思想

甗(シル)と釜の象徴

「甗は個々の米粒が餅を蒸すことにより一つの塊となる器であり、すべての分裂した族属と文明・思想を一つに集め、一つに帰一させることを象徴する」

釜の三本脚は天地人の体、甗の円は天地人の用として、陰陽関係を形成

人間中心の循環経済学

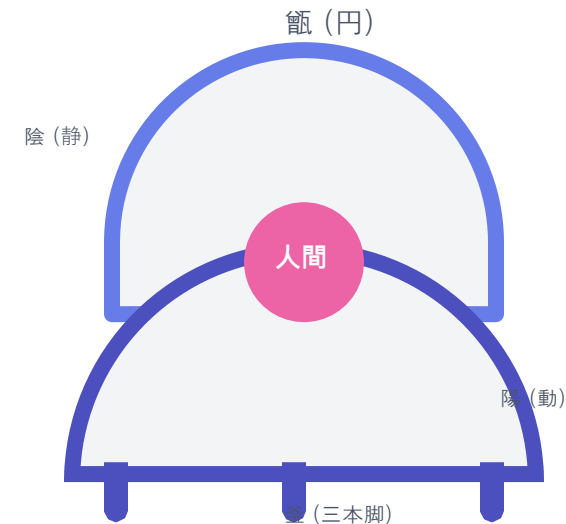
「大巡の人尊思想において、人間は循環の中心となって万物を甗のよう」に熟成

精神と肉体という陰陽で自己言及のフィードバックを行う、人間中心の経済観

韓国伝統の融合的特性

「韓国はビビンバ文化で、混ざることを嫌う日本文化とは異なり、混ぜることに味と趣を見出した。」

大巡真理会の医療、社会福祉、奨学事業などを通じた循環的経済観の実践





循環的経済観の意義

大巡思想の循環的経済観は、既存の科学の還元主義的方法論に対比される新たなアプローチである
経済と倫理、人間と自然の調和的な循環を通じて、現代の経済問題の解決可能性を提示



甌(シル)経済学の現代的適用

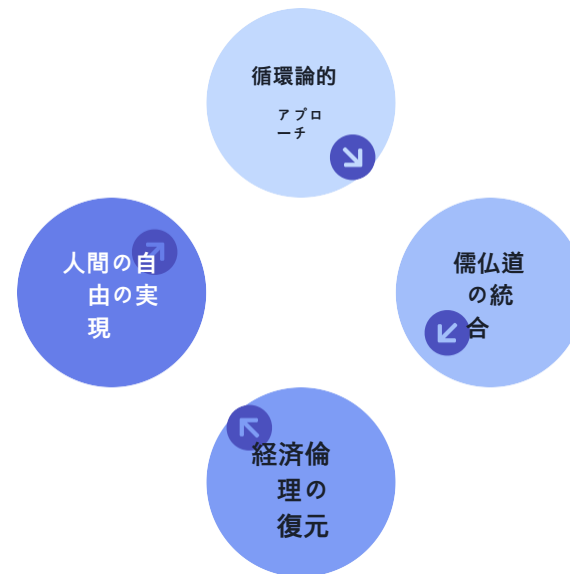
韓国的経済学として、個人の経済問題と理念分断の難題を解決可能。すべてが貨幣化された社会において、貨幣循環を通じた自由の達成



今後の研究課題

個人の経済状況の好転のための具体的な実践方策の研究。
循環的経済学の実用的適用および検証

大巡思想の循環的方法論を、様々な経済・科学分野に適用



「すべてが貨幣化された今日、貨幣が循環すれば、人間と万物の自由を達成することができる。」